

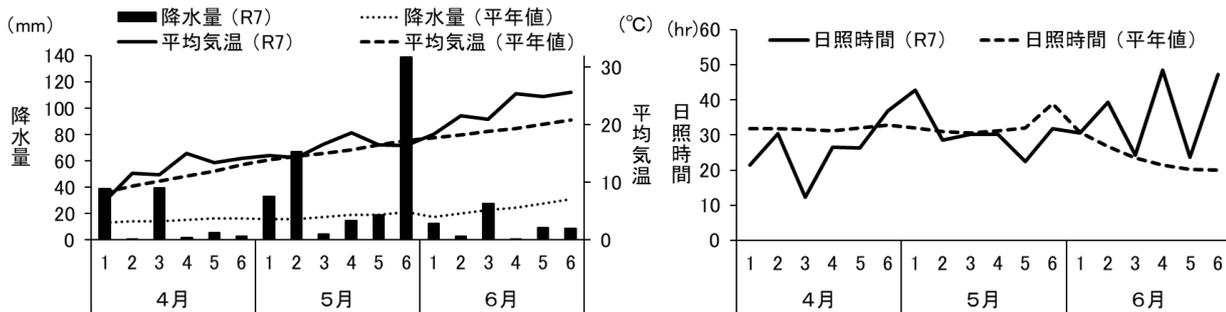
仙台稲作情報 2025 (第4号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL : 022-275-8410 FAX : 022-275-0296
 http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai E-mail : sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷ 中干しは幼穂形成期前までに終わらせましょう。
- ▷ 追肥は稲の葉色や生育ステージを確認して実施しましょう。
- ▷ 病害虫防除は防除適期を逃さず計画的に実施しましょう。

1 気象経過



- ・ 6月中旬と下旬の平均気温は平年よりかなり高く推移し、日照時間も概ね平年より多くなりました。
- ・ 東北南部は6月14日頃に梅雨入りしたとみられますが、6月下旬の降水量は平年より少なく推移しました。

2 管内の生育状況（7月1日の調査結果）

(1) 移植栽培（ひとめぼれ）

草丈の管内平均値は59cmで概ね平年よりやや大きく、茎数は447本/m²で平年よりやや少ない状況です。葉色は38.3でこの時期の目安（40前後）を下回っています。

表1 7月1日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/22	56.8	111	115	375	107	105	38.9	-0.8	-2.5
	北部平坦	大郷町鶉崎	5/18	59.7	98	107	561	81	93	37.4	-1.4	-2.6
	西部丘陵	仙台市泉区	5/11	60.6	-	-	404	-	-	38.7	-	-
	管内平均			59.0	105	112	447	85	93	38.3	-0.9	-2.4
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/13	59.6	113	116	479	93	91	36.7	-3.9	-4.0
にじのきらめき	北部平坦	大郷町土橋	5/22	55.1	-	-	497	-	-	34.2	-	-

※平年比の計算は、直近3か年の平均値を使用。仙台市泉区ひとめぼれ、大郷町土橋にじのきらめきは、今年から調査しているため平年値なし。

表2 品種別生育調査結果（県内32地点）

品種	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)		
	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	58.1	104	110	480	94	93	40.1	-1.3	-2.4
ササニシキ	55.9	105	112	504	90	83	38.1	-2.6	-2.2
つや姫	59.9	109	124	420	91	88	40.0	-1.0	-3.7

※ひとめぼれ18地点、ササニシキ6地点、つや姫8地点、古川農業試験場、仙台の地点含む

(2) 乾田直播栽培

慣行ササニシキの草丈は 41cm、莖数は 436 本/m²、葉色は 28.6 でした。県認証基準ササニシキでは、草丈 50.4 cm、莖数は 605 本/m²、葉色は 31.8 でした。乾田直播ほ場は全体的に葉色が淡いほ場が多く見受けられますので、状況に応じて追肥を検討してください。

表3 7月1日の調査結果

品種	地帯	場所	播種日	苗立数 (本/m ²)	草丈 (cm)			莖数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)		
					本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ササニシキ (慣行)	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/25	210.0	41.0	81	79	436	92	74	28.6	-1.7	-7.9
ササニシキ (県認証基準)	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/25	170.7	50.4	-	-	605	-	-	31.8	-	-

3 本田管理

気温が高い傾向が続いています。稲の生育や、病害虫の発生が早くなることが予想されますので、適期管理をこころがけてください。

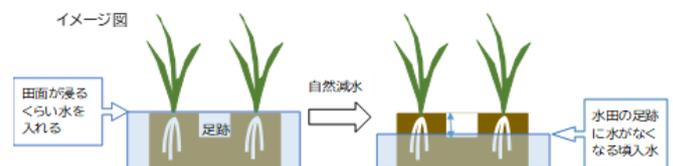
(1) 水管理

- ・高温により水温が上昇すると分けつが旺盛になることが予想されます。有効莖数を確保したら、早めに中干ししてください。
- ・中干しは遅くても幼穂形成期前に終了し、終了直後は走り水程度として徐々に間断かんがいに移行しましょう。
- ・根腐れや倒伏の危険性が高いほ場では、有効莖確保から出穂期まで飽水管理とすることで、土壌を酸化的に保ち、根の活力を維持できます。

※飽水管理とは、水田の足跡に水が無かったら入水し、表土が十分湿ったら落水する水管理です。

○飽水管理の方法

- 1 水尻を閉め、畦畔から漏水がないか確認する。
- 2 田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- 3 水を止めたら水尻を閉めたまま自然落水する。
- 4 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。（目安は3～5日おき）



- ・幼穂形成期から減数分裂期に、日平均気温 20℃以下が長期間続く場合や最低気温 17℃以下の場合には障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、できるかぎり深水管理を実施しましょう。

※幼穂形成期：幼穂長が 1～2 mm に達した時 減数分裂期：幼穂長が 30～120mm に達した時

(2) 追肥

- ・葉色は今後低下することが予想されます。**穂揃期に葉色が低下していると、高温による品質低下の影響を受けやすくなります。**ほ場をよく観察し、適切な追肥を行い葉色維持に努めましょう。
- ・追肥時期の葉色、品種ごとの時期及び施用量については表4、表5を参考にしてください。
- ・5月上旬に移植したほ場では、既に幼穂形成期に入っている可能性もあります。ほ場により生育が異なるので、幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は、倒伏が懸念されるため原則として追肥は行いません。しかし、**高温下では窒素肥効の消耗が激しく、緩効性肥料を施用した場合でも幼穂形成期頃から葉色が低下するほ場がみられるため、葉色が著しく低下している場合は追肥を検討しましょう。**
- ・「だて正夢」は、他品種に比べ莖数が少なく葉色が濃く推移します。幼穂形成期に目安の莖数（390

～460本/m²) が確保できている場合は、減数分裂期の追肥を基本として実施しましょう。

- ・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移しますので、急な葉色の低下に注意し、登熟向上のために表5の目安で2回の追肥を基本として実施しましょう。

表4 生育ステージにおける葉色の目安
(上段：SPAD値、下段：カラースケール値)

品種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	38 ～ 40	35 ～ 37
	4.4 ～ 4.8	4.0 ～ 4.3
ササニシキ	34 ～ 36	32 ～ 34
	3.8 ～ 4.1	3.5 ～ 3.8
つや姫	35 ～ 37	31 ～ 33
	4.0 ～ 4.3	3.3 ～ 3.6
まなむすめ	35 ～ 37	36 ～ 38
	4.0 ～ 4.3	4.1 ～ 4.4
だて正夢	40 ～ 42	37 ～ 39
	4.8 ～ 5.1	4.3 ～ 4.6
金のいぶき	33 ～ 35	30 ～ 32
	3.6 ～ 4.0	3.2 ～ 3.5

表5 穂肥の標準的な窒素施用量の目安(成分量/10a)

品 種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ 金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	-	1.0～1.5kg
まなむすめ つや姫	2.0kg	-
だて正夢	- (茎数が少ない場合は1.0kg)	2.0kg (幼穂形成期に1.0kg追肥した場合は1.0kg)

(3) 病害虫防除

イ いもち病

- ・病害虫防除所の発生予察情報(6月24日発行)では、葉いもちの発生量は「平年並」と予報されています。
- ・箱施用剤を使用していない場合は水面施用剤による予防防除を実施しましょう。
- ・7月中旬から箱施用剤の効果は低下し始めるとともに、葉いもちの感染好適条件が出現しやすい時期となります。ほ場を見回り、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・追肥後一時的に稲体窒素濃度が高くなると、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので、発生に注意してください。
- ・BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下の病害虫防除所ホームページを参照してください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

□ 紋枯病

- ・近年、高温の影響で発生が目立つ病害です。前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがありますので、穂ばらみ期の水面施用剤、穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。
- ・防除要否の判断は表6を参考として、被害許容水準を超える発病がみられたら防除してください。

表6 防除要否の判断基準(被害確率50%で設定)

被害許容水準	穂ばらみ期発病株率		
	ひとめぼれ	ササニシキ	コシヒカリ
収量5%以上減収	18%	10%	29%
収量3%以上減収	12%	9%	18%
収量1%以上減収	10%	3%	14%
白未熟粒3%以上増加	67%	28%	51%
白未熟粒1%以上増加	11%	-	12%

古川農業試験場 普及に移す技術第90号参考資料「イネ紋枯病の新しい要防除水準」より抜粋 <https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305990.pdf>



イネ紋枯病 病斑

ハ 斑点米カメムシ類

- ・イヌホタルイ、ノビエ等の水田雑草は、斑点米カメムシ類の水田への侵入を助長するので、7月上旬までに中後期除草剤を用いて除草を行いましょう。**6月下旬時点で、イヌホタルイが水田内に残っている場合、落等する確率が高くなるため、1回目の斑点米カメムシ類への薬剤散布の時期を「出穂始期～穂揃期」に早めると効果的です。**
- ・生息地である水田周辺のイネ科雑草を刈り取ることで、周辺環境の斑点米カメムシ類の密度を抑え、斑点米被害粒率を抑制できます。幼虫主体の時期である7月中旬までに刈り取りしましょう。
- ・水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに行いましょう。

ニ 乾田直播の病虫害対策

基本的には移植栽培と同じ管理となりますが、以下の病虫害の発生に注意しましょう。

(イ) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、感染のタイミングが遅れる傾向があります。ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。

(ロ) イネツトムシ

通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましょう。

4 東北地方の向こう1か月の天候の見通し(6/26 仙台管区気象台発表)

予報のポイント

- 高温に関する早期天候情報が発表されており、6日頃から気温がかなり高くなる見込みです。また、6月27日には「長期間の高温に関する東北地方気象情報 第1号」が発表されており、1か月程度は暖かい空気の覆われやすく、気温の高い状態が続く見込みです。農作物や家畜の管理、熱中症対策などの健康管理に十分注意してください。
- 前半を中心に太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込みです。

◇熱中症に気を付けて安全な農作業を心がけましょう！

- ・暑さを避ける…高温時の作業は極力避けましょう
- ・こまめな休憩と水分補給…水分補給は喉の渇きを感じる前に
- ・単独作業は避ける…複数名で作業を行い、連絡を取り合きましょう
- ・熱中症対策アイテムの活用…帽子や吸湿速乾性の衣服、空調服などを活用しましょう

■宮城県農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日)

宮城県では、6月から8月にかけて農薬危害防止運動を実施しています。この時期は農作物等の病虫害が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

次回の稲作情報第5号は、7月10日に実施する生育調査の結果をもとに7月11日頃の発行となります。